



# Cisco ATA 190 向けの Cisco Unified Communications Manager Express の設定およびテスト

初版：2015 年 7 月 10 日

## はじめに

Cisco Unified Communications Manager Express (CME、旧称 Cisco Unified Call Manager Express) は、Cisco IOS ソフトウェア内の通話処理アプリケーションであり、Cisco Unified Communications Manager (Cisco UCM) と同等の機能をシスコ ルータを通して企業の支社や小規模の企業に提供します。

通常、CME は シスコ ルータ上で動作し、Cisco UCM が提供するものと同様の機能を提供します。

ATA 190 の場合、CME は 次の Cisco UCM 機能のサブセットをサポートします。

- Call Forward All (不在転送)
- Call Transfer
- コール待機
- Redial
- アドホック会議コール (ローカルの 3 者間通話)
- 保留/復帰

CME でサポートされているコール シーケンス モードは、**米国モード**のみです。

## メカニズム

CME は、CLI からのみ設定できます。CME バージョンは、**show telephony-service** を使用して確認できます。最新の CME バージョンは 10.5 です。10.5 以前のバージョンでは、Cisco ATA 190 を直接サポートしていません。Cisco ATA 190 の CME 機能はすべて、Cisco ATA 187 ベースのファストトラック方式でサポートされるようになりました。近日、CME チームは組み込みモードを備えた新しいバージョンの Cisco ATA 190 をサポートする予定です。

## 設定 (Configuration)

## 設定 (Configuration)

CME 機能は、Cisco CLI を使用して設定されます。

- ATA190 ファーストトラックを設定します。

```
CME> enable
CME# configure terminal
CME(config)# voice register pool-type ATA-190
CME(config-register-pooltype)# reference-pooltype ATA-187
CME(config-register-pooltype)# exit
```

- ディレクトリ番号 (電話番号) を作成します。

```
CME(config)# voice register dn <tag>
CME(config-register-dn)# number <phone number>
CME(config-register-dn)# exit
CME(config)# do show voice register dn <tag>
```

- ATA190 回線のプールの作成

```
CME(config)# voice register pool <tag>
CME(config-register-pool)# id mac xxxx.xxxx.xxxx
CME(config-register-pool)# type ATA-190
CME(config-register-pool)# number 1 dn <dn-tag>
CME(config-register-pool)# template 1
CME(config-register-pool)# preference 1
CME(config-register-pool)# username <user> password <pwd>
CME(config-register-pool)# codec g711alaw
CME(config-register-pool)# exit
CME(config)# do show voice register pool <pool-tag>
```

- ATA 190 回線のプロファイルを作成します。次の操作の後に、ATA<mac>.cnf.xml ファイルが生成されます。

注：ATA190 には 2 つの電話ポートがあり、それらは 2 つのデバイスにマッピングされます。最初のデバイスで使用される ATA 190 の MAC アドレスが、2 番目のデバイスではシフトされて使われます (たとえば、MAC アドレスが AABBCDDDEEFF から BBCCDDEEFF01 にシフトされます)。

```
CME(config)# voice register global
CME(config-register-global)# create profile
CME(config-register-global)# exit
```

- ATA<mac>.cnf.xml が正常に作成されていることを確認します。

```
CME # more system:cme/sipphone/?      (check profile status)
```

## テスト

- コール転送テスト

- **#72 +** コール転送の接続先 **+ #** をダイヤルして、不在転送をアクティブ化します。
- **#73** をダイヤルして、不在転送を非アクティブ化します。

## テスト

- コール転送テスト

**ブラインド コール転送を実行するには：**

ステップ 1：電話機のハンドセットのフラッシュ ボタンを押すと、相手との通話が保留状態になり、ダイヤル トーンが聞こえます。

ステップ 2：電話機のキーパッドで **#90**（転送サービス アクティベーション コード）を押してから、通話の転送先となる電話番号を入力し、最後に **#** を押します。

ステップ 3：呼び出し音が聞こえたら、電話を切ります。

**早期コール転送を実行するには：**

ステップ 1：電話機のハンドセットのフラッシュ ボタンを押すと、相手との通話が保留状態になり、ダイヤル トーンが聞こえます。

ステップ 2：通話の転送先となる電話番号をダイヤルします。

ステップ 3：通話相手を転送するには、リングバックトーンが少なくとも 1 回鳴るまで待った後に電話を切ります。

**在席コール転送を実行するには：**

ステップ 1：電話機のハンドセットのフラッシュ ボタンを押すと、相手との通話が保留状態になり、ダイヤル トーンが聞こえます。

ステップ 2：現在の通話を転送する電話番号をダイヤルします。

ステップ 3：呼び出し先が電話に応答したら、その相手の了承を得てから電話機のハンドセットを置くことで、既存の通話を転送できます。

- コール ウェイティング テスト

コール ウェイティングは、デフォルトで有効になっています。ユーザは、次のようにコール ウェイティングを有効または無効にできますが、既知の問題により、コール ウェイティングは常に有効になっています。

```
CME(config)# voice register pool <tag>
CME(config-register-pool)# call-waiting      (Enable call waiting)
CME(config-register-pool)# no call-waiting   (Disable call waiting)
```

別のコールが着信すると、コール ウェイティング トーンが鳴ります。フック フラッシュによって現在のコールが保留になり、待機中のコールに切り替わります。

このようなシナリオのフック フラッシュでは、電話会議を開設することはできず、コール間の切り替えのみを行うことができます。

- リダイヤル テスト

**\*#** を押して、最後にダイヤルした番号にコールします。

## 法的情報

## ● アドホック会議テスト

現在の CME バージョンの場合、音声混合は Cisco ATA 190 側でのみ実行できます。この動作は、SRST に似ています。

- 最初の電話番号をダイヤルします。
- 呼び出し先が応答したら、電話機のフラッシュ ボタンを押します。この操作により、最初の呼び出し先が保留状態になり、ダイヤル トーンが聞こえます。
- 2 番目の参加者に電話して、相手が応答したら、通常の方法で通話します。
- 両方の発信者との間で同時に会議を行うには、フック フラッシュを実行します。

## ● コールの保留/再開テスト

フック フラッシュを押すと、現在接続したコールが保留になり、フック フラッシュを再度押すと、保留中のコールが再開されます。

## 法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。本機器は、無線周波数エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、無線通信障害を引き起こす場合があります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 機器と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに機器を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

## 法的情報

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト ([www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices)) をご覧ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.